



小佐々地区小中一貫コミュニティ・スクール 海光る町学園

佐世保市立楠栖小学校



所在地 佐世保市小佐々町楠泊 5 2 6 番地
校 長 春田 優洋
児童数 1 4 1 名
学級数 7 学級

海光る町学園共育目標

ふるさとを愛し、心身をきたえ、たくましく生きる力と
豊かな人間性を備え、自主性と社会性に富んだ
児童・生徒の育成をめざす

本校教育目標

地域を愛し、夢に向かって たくましく生きる子どもの育成

校訓 「勇気」 「やる気」 「根気」

めざす児童像

- ㊦ 考え抜く子ども
- ㊦ がんばり抜く子ども
- ㊦ やわらかな心の子ども
- ㊦ 郷土を愛する子ども

めざす学校像

いきがい
やりがい
学びがい
のある 学校

令和 3 年度「特色ある学校づくり」実践報告

1 目的

小中一貫型コミュニティ・スクールの推進及び地域教育力を
活用した教育活動の充実

2 実践内容

<地域交流活動>



イモさし・イモの収穫
(1・2年生)



そろばん指導
(3・4年生)



真珠工場見学
(3年生)



地層の見学
(6年生)



水産教室
(4・6年生)



丸付けボランティア
(1～4年生)



読み語りボランティア
(全学年)



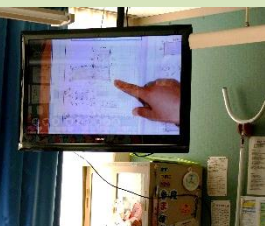
→ 三校共通実践

<小中連携活動>



かがやきっ子オンライン会議
楠栖小・小佐々小・小佐々中
児童・生徒 代表者会議
(5・6年生)

<学力向上活動>



算数科を中心とした校内研究

3 成果

- 「郷土を愛する子ども」を育てることを目標に、「地域のことを」「地域の人と一緒に」「地域で学ぶ」実践を予定した。新型コロナウイルス感染症の感染力や感染者数は、昨年度より厳しかったが、感染状況が落ち着いたタイミングで、可能な限りの活動に取り組んだ。

約2年ぶりの丸付け・読み語りの両ボランティア活動の再開では、児童が久しぶりに地域の人たちに接する喜びと、地域から見守られている実感を味わえた。ボランティア・スタッフにも児童の成長を見ていただける機会となった。

- コミュニティ・スクールの活動の一つである3校の児童生徒代表による「かがやきっ子会議」。この重点実践事項の一つとして「おさかなあいさつ」の実践、浸透に取り組んできた。本校では、5・6年児童が学校入口で挨拶運動を実施したり、どの学年のあいさつがよかったか毎週チェックを行ったりした。その結果、児童の意識も高まってきた。

【R3 心の状況調査（2～5年生の平均値）】

アンケート内容	本校児童肯定率	全国平均との差
近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか。	95.3	+16.4

- 校内研究において算数科を中心に学力向上に努めてきた。また、学力調査を活用、結果を分析し、児童の伸ばしたい力を明確にし、各学年で実践に取り組んだ。

算数科の授業実践では、自分の考えを説明するために、具体物や図、式などを使って、筋道を立てて自分の考えを説明したり、その時間に何が分かったかを振り返る活動を大切にしたりした。また、学年や個々の実態に応じた学習プリントを活用し、朝の補充学習の時間や家庭学習に取り組ませた。

このような実践を通して、12月の標準学力調査では、学力の向上が見られた。

4 おわりに

コロナ禍で活動に制限がかかり、できないことが多かったが、ICT機器の活用したオンラインでのやり取り等、コロナ禍でもできる活動に工夫をして取り組んでいきたい。

今後も、コミュニティ・スクール「海光る町学園」として、学園運営協議会での協議を生かし、地域の協力を得ながら3校での共通実践に取り組んだり、地域学校協働本部と連携し、有効的な地域人材・地域教材の活用に取り組んだりする。

また、児童の学力向上には、家庭の協力が必要不可欠である。学校からの情報発信を積極的に行い、ともに児童を育てていきたい。

次年度も小中一貫型コミュニティ・スクールの推進及び地域教育力を活用した教育活動の充実を図るために、さらに地域・保護者とともにある学校づくりに取り組んでいく。